

23/2/10 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会（第54回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

10:30

鈴木整備室長：はじめる
上田所長から挨拶

上田所長：名古屋まで来ていただきありがとう
搦手石垣＋表二の門
来年度事業計画準備している
忌憚のないご意見を

鈴木：出席者紹介
梶原欠席
撮影・録音はここまで
配布資料確認

北垣：おはよう
本丸搦手馬出周辺石垣の修復について

鈴木：敷金について意見が欲しい

北垣：敷金について説明を

名古屋城：成分分析してきた 低炭素鋼
西本から試作品を渡す
写真

10:43

北垣：ありがとう 意見は

赤羽：比重が高い 刀剣との比較 敷金とどう違うか

宮武：丸亀城で裁断した 鋼玉 日本刀と同じ
名古屋ではやっていない
鑄造10何年 よほどしっかりした材質

西本：成分分析はやった 刀剣と比較は検討したい
現時点ではやっていない

北垣：現在の解体調査でやっている
各地の城郭の中で敷金が出ている
情報を受け取られて進めるべき
宮武先生おっしゃったが、鍛造ではないか
名古屋では使っていたと話が出てこない
形 難しいが、鍛造は一つ一つたいていく 大変な金がかかる
他の城郭では使われているか 参考意見として知っておくべき
名古屋の現状をどうとらえるか

宮武：座長からこれからの考え方が示された
その前 90個検出 隅角は20いくつ
1個の角石に4個つかっている
形状的にはこれだけ 用途を分けている
この石にはこの敷金がこう入っていたというデータはあるか

西本：敷金は実測してある
どこに入っていたかまではやっていない

宮武：敷金なぜ使っているのか？検証していない
多分角度調整、滑り止めだろう
天和→角度ぐちゃぐちゃ 勾配角度
同様に敷金入れて大丈夫か
どこにどのタイプを入れていたかわからない
厚み 2枚重ねて？ ある イレギュラー
足りないから重ねておけ
このタイプはどう入れる 目安をつけたうえで
復元過程で滑り、角度、折れとか

西形：敷金の本当の目的と機能 はっきりしない 知らない
隅石のどこか 前か

西本：中心部分

西形：角度調整、安定化のため 滑り止め

施工しやすい

長期的に敷金で安定化に寄与するのか？

なにも入っていない方が安定する？

本当に必要なのか

入ってたから同じようなもの入れた方がいい？

安定の問題 無理やり入れるのはどうか

宮武：文化財の考え方としては正しい

データ十分ではない

とりあえず大きさ

分かるデータ どこの部分に何が入っていた

データがない場合 標準値 使いまわしができるのはどれか

90個のうちやっつけはどれか

整理をしたうえで、全国の使い方

自分のところででたものの整理をしないと

千田：入れるのが本当にいいのか

いまさら遅いが、はじめに綿密な観察をして

変形した勾配を戻していく

石の当たり方も変わる そこから入れていくのは変にならないか

鍛造 刀剣のようなもの

今回の復元は？

名古屋城：鍛造を予定

千田：同等なら結構 金属ならさびていく 不安定化？

もうちょっとどう機能していたか見極めて

必要なら敷金を

そうでなければ、同じようなものを入れておこうは将来的に問題が起こるかも

北垣：おっしゃっていることに尽きる

仙台城 石垣 上に立てない

数点集中的に使っている

どういう状況でその時に必要なのか

敷石 鎌のようなものも

石垣の機能 安定性をしっかり確保するために補助的に使う

もとに復していく 安定した状況を確保するために必要なら使う

資料 意味があるが、もう少し提案を検討していただく必要がある
名古屋ではどうしていくの
「敷金は必要ない」となるかも
持つ意味を検討していただく

宮武：仕事は仕事
着工時に全部そろっていないといけないわけではない
どの段階で決着しないと
隅角石 来年度後半には入る？

名古屋城：今年度工事で1石2石入れる
コストを考えると、まとめて発注すると安くなる
施行例 3石分がマスト

千田：石工さんと相談して、敷金いれないとダメなのか

名古屋城：検討中

千田：今年度 タイムリミット
あとで帳尻 大丈夫か

宮武：下のところはデータがある
最低でもそこははっきりさせよう
このタイプ こうあった 下ならわかるならそこをやろう

村木：センターに記録がある

宮武：解決しないといけない話題
復元していく→使う方法は盲点だった
高い石垣復元は数例しかない
敷金研究
仙台、小倉
時代的な特徴 どういう目的 総合的検証は進んでいない
天和 高石垣 複数種類
持ちネタとしてよい
時間軸 進化していく
隅角石 自然石→精加工

どこで使っているのか 当たり方が変わっていく
分析やったことがない
板がね、鉄板
サイズ数種類 多分これ
消えていくのか、
研究素材としては重要

北垣：ほかは

千田：案の3？

名古屋城：案の3

千田：資料を作るとき、なにを考えているか
何もあらわれていない
表二の門 フォーマットがあっていない
資料を集まった時点でフォーマットがあっているか
結論を明記して
フォント、大きさも書いていない
どこに向かっているのか書いていない
担当者レベルでもダメ 上司もダメ
今日初めてではなく、何回も言って改善できないのか
様式保存 役割分らないが入れておいては→疑問が指摘された

鈴木：申し訳ございません
改善したい

北垣：案3

1も2も使い方が直角
長方形の鉄板を斜めに切った
こんなことではない 鍛造は両方傾いている
両面に角度なければ
3でやってもらっては困る

名古屋城：絵上は直角
鍛造なので多少

千田：「図はそうだが実物は違う」
説明として成り立っていない

北垣：この件は敷金仕様 課題が出ている
しっかり踏まえて次回

赤羽：直角三角形かどうかは疑問
角度 分布 ほとんど決まった角度か、ばらつきがあるのか
微妙な問題

名古屋城：角度分布はデータがないので検討したい

11:14

北垣：この話は今日は終了
資料2 雁木

大村：試掘調査、調査計画について

11:26

北垣：ありがとう

宮武：赤調査区3, 4, 5 去年の夏から進行したのか

大村：見たもの

宮武：切り石の下 自然石
2頁調査区4断面図に出していない

大村：切り石は断面図に書いていない

宮武：この下 石はこの位置
図化していない

大村：タイミング

宮武：どう評価するか
地伏石？

大村：木柵の設置時にやられている
近世層に刺さっている

宮武：近世の構造物
ずっと下に延びている可能性？
地伏石の可能性？

大村：ここの箇所しか確認できていない

宮武：断面図 真下に来ているようなら、前面なら異常
先行する何かの遺構

大村：今後検討

北垣：ほかは

千田：大事なので図に加えて
調査区の断面 掘りこみラインがあるのか、ただ埋まっているのか

北垣：図4 上の石 左は荒加工 右は精緻な加工

大村：注目している
7石出た この1石だけが荒い
底 ほぼ自然面 なぜか荒い
取り外した際か積みなおしたときひっくり返したか

北垣：雁木の面を返したのか
蹴上 人が踏んでいくところの面 新しいものになっていく
本来的 和歌山城岡口門 南西
雁木 天正くらいになる
割り面がそのまま残る 野面石のよう
石材 「一才」一尺角
城郭技術が河川に移ることも 逆も
ここに加工する 加工する石工がいる
延べ石状 控えが長い 重ねていく
重ねが少ないのは新しい

もう少し前の話を知っておかないと理解できない

大村：勉強になった

他城回った 他事例を集めながら検討したい

宮武：同じ指摘

一つのトレンチで複数の時代ある

3頁4頁 「ステップ状遺構」とは

遺構は人為的なものをさす

大村：堆積状況からみれば階段状

斜面にわたって階段状

当初雁木を取り外した際に残された作業面ではないか

円礫はまばら 背面構造とは違う

宮武：撤去した抜け穴ではなく、撤去する際に作っただんだん

その根拠は

一人歩きしちゃう

ステップ状遺構 本当に遺構か？

報告書で苦慮する

整備の際残さないといけないのか

作業過程 しまっちゃっている盛り土の変形？

土井矩 上がり下がりなら意味がある

抜け跡の延長 背面の土層 一人歩きさせる名称を与えるより

来年度整備するだけ

雁木最下段だとして、そのまま復元はナンセンス

全体の景観、残っている遺構の復元

どこまでやるか決めないと泥沼

古い経過

すでに石垣面 雁木の抜け跡痕跡 これを超えるような整備になるか

ゴールが見えてしかるべき

整備のゴールはこれ 整理して

無理に意味合いを考えなくていい

大村：踏まえて来年度調査を考える

北垣：時計が調子が悪い

もうしばらく続けるのか

鈴木：議題としては2つ

ここから意見が多くあれば休憩

北垣：かなりご意見いただいた

鈴木：このまま終わりまで

赤羽：そもそも論

資料1 表2の門修理の前提 土堀が傷んでいる

雁木はどうなのか

発掘調査によって雁木痕跡を確認した→確認する

土塁確認した→確認する

調査そのもの 雁木復元が可能なのか

土塁そのもの 栗石破壊 雁木復元が可能か検討

いつ壊されたのか、なんで壊されたのか

使命が終わったので取り壊された？

乱暴に壊されている

かなり復元が難しい

整備ありきの調査ではなく、名古屋城どうだったのか確認

調査のセオリーをわきまえて

これからもっとしっかり

村木：資料の作り方、調査の目的、まとめかたご指摘ありがとうございます

もう一度手探りで調査した

十分検討していない

もう一度検討できていなかった どこまで調査するか

来年度何を目標して調査するか 精査してやる

北垣：赤羽先生よりか

千田：いくつか

赤羽先生の話と重なる

雁木調査 何を明らかにするのか 十分認識されていないのでは

石塁の上に上るため→守る 堀の上で鉄砲など

雁木の階段 分かればいいではなく、平場 どれくらいあるのか

当然あるべき

その部分 発掘で階段発見

上が例えば 20 センチ 雁木として機能していない

図面一つをとっても斜面があればいい

雁木 どう理解していくか 堀の内側まで図面がないと、

図9では雁木機能が抜けている

「ここまで合わせて理解している」

申し訳ないけど理解できていない

注記 報告書と同じ？違う

違うならちゃんとした注記を載せないと、資料にならない

「瓦を含む」なんなのか

全体像をとらえないと 建築側と大きくかかわる

表二の門 土堀がついている 控え柱がある

斜面に来ている 非常に珍しい

通常は階段

本来の位置を継承しているのか

二重にぬき

低い位置に入っている

雁木を作っているのに、ぬきがあるため右にも左にも行けない

本来の形とは変わっているだろう

建築構造が違っているだろう

調査でつかんでいく 本来の機能の理解をつかむ

どういう調査をすべきなのか 変わってくるのでは

全体と指摘になるのは、調査区3 4 5 6

毎年1 2 3が出てくる

どれだけ出るのか

特別史跡 名称 R4-1 など

重大なことを明らかにした

本丸の入手前 枡形で活用の中で近世の遺構面 掘削して破壊

センサーかく乱部 名古屋市としても本丸御殿作る際に遺構面ぶち壊した

非常にまずかった

配線をするためにさらに深く掘削した

大いに考えないといけない

どのレベルまで守らないといけないのか

センサーだっているだろう 柵作らないと

基礎構造 深くて地中ではなく、地表とごくわずかの食い込みで作る必要がある

雁木が分かってきただけではなく

いろいろ読み取る必要がある
4頁 脇の石垣 雁木の痕跡？
金沢城二の丸 石材加工がきれい 階段状が見える

北垣：ありがとう
千田先生 要約された
私から言うことはない
そういった対応 雁木という言葉だけでなく、
名古屋城のこれからの方向性 雁木を通してこれからの調査
いろいろご意見をいただいた
事務局で次回以降検討していただければ
今日は長時間 トイレ休憩もなく失礼した

宮武：次回までの注文
敷金の問題 隅角部
次回部会議題 間に合わない
村木副センター長 検出時データ整理して、
オンライン等で議論を進めないと言わない間に合わない
復元 次回3月 この場で検討案 絶対的に必要
新年度はいる
雁木 一番以降 検討案でた
トレンチ調査の結果 面的に
どこで止めるのか 進めていかないと

村木：すみません

北垣：今日は教わるが多かった

鈴木：ありがとう
終わり
12:02